



令和6年度 枚方トピックス7号



10月 22日 苦境にあっても天を恨まず、運命に耐え、助け合って生きていく（道徳）

卒業式が行われている体育館。卒業生代表の男子中学生が壇上で涙を浮かべて、この言葉を誓うシーンの映像をみて、彼の心情を考えました。

津波で被災した宮城県気仙沼市にある中学校の卒業式のシーンです。卒業式前日に、気仙沼市を東日本大震災の津波が襲います。卒業生 57 名の式は延期され、54 名の卒業式になりました。（3 名は犠牲）

Q.苦境にあっても天を恨まず、運命に耐え、助け合って生きていくことが、これからのわたくしたちの使命です。彼の言葉にはどんな心情がこめられているのでしょうか？

A.悲しいけれど、今はみんなと力を合わせて、前を向いていかなければならない。

現実を受けとめて、一步を踏み出さないと・・・と考えている。

一緒に卒業できなかった仲間の分まで、助け合って生きていかなければいけないと思っている。

卒業生代表として、一緒に苦しいことを乗り越えようというメッセージを伝えたい。

苦境、運命、使命・・・彼の涙や言葉の一つひとつからみえる心情を、みんなで真剣に考えることができました。

